

2021
(令和3年)
5/

13 木曜日

毎日小学生新聞編集部
郵便 〒100-8051 (住所不要)
ファクス 03-3212-2591 電話03-3212-0321
メール maishou@mainichi.co.jp

毎日小学生新聞

MAINICHI

発行所 毎日新聞東京本社
〒100-8051 東京都千代田区一ツ橋1-1-1配達お問い合わせ
購読お申し込み

0120-468-012

(6-21時、一部地域は平日10-18時)

定価 1か月1750円 (本体1620円、消費税130円)・1部70円

東日本大震災
10周年

「あの日」に学ぶ

英語

世界中に思いをつなぐ

東日本大震災から防災を考える「『あの日』に学ぶ」の第9回は英語。震災の津波は、アメリカ(米国)人の外国語指導助手(ALT)の命もうばいました。「日米のかけ橋になりたい」という思いは、家族や教え子らによって受け継がれ、今も生き続けています。【百武信幸】

Taylor was living her dream in Japan and one of the next dreams she wanted to fulfill was to return to America and be a bridge between our two countries. テイラーは日本で夢を生きていましたが、次の夢の一つは、アメリカに戻って両国のかけ橋になることでした。

She'll always live on as we emulate her everyday. 私たちが毎日彼女を見習えば、彼女はいつまでも生き続けるのです。(テイラー・アンダーソン記念基金編「Live Your Dream 夢を生きる」より)

引用した英文、少し難しいかもしれませんが、dreamやbridgeなど、知っている単語から意味を想像しながら読んでみてください。東北の地で今も愛される先生の家族がつ

づったことばです。

宮城県石巻市の幼稚園や小、中学校で英語を教えた女性、テイラー・アンダーソンさん(当時24歳)の両親が本に寄せたメッセージです。



被災前、宮城県石巻市の高台で笑顔を見せるテイラーさん＝テイラー・アンダーソン記念基金提供

テイラーさんは震災の時、子どもたちを高台に避難させた後、津波の犠牲になりました。両親は「日米のかけ橋になりたい」と願っていたテイラーさんの思いを受け継ぎ、アメリカで集まった寄付金で基金を作り、石巻市内にある学校の支援を始めました。その一つが、学校に本や本

本だなを贈る「テイラー文庫」です。本だなはすべて石巻市の木工作家、遠藤伸一さん(52)が作っています。震災で3人の子を突然失う悲しみに直面しましたが、3人ともテイラーさんの教え子だったことから本だな作りを引き受けました。素材は温かい手ざわりが特徴で、テイラーさんの母国・アメリカを代表するセコイアの木。遠藤さんは「テイラー文庫を作ることで自分の生きる意味を見つけた。石巻の子どもたちが喜んでくれるものを作ることが、自分の子どもたちの生きた証しになると思えるようになった」と振り返ります。

＝2面につづく



イラスト・にしむらかえ

スペシャル

＝1面からつづく
震災後、母国に帰らず宮城県にとどまる決意をしたイギリス人の男性がいます。石巻市中心部で「復興まちづくり情報交流館中央館」の館長を務めるリチャード・ハルバーシュタットさん(55)。1993年から石巻で大学教員を務め、震災直後、原発事故の影響を心配したイギリス大使館から一時帰国を勧められた時、仙台まで向かいましたが、迷った末、大使館の人に伝えたのが、I've decided～という言葉でした。

このgo backは「帰る」という意味。大使館の人から「安全な場所に行かれるのが何より」と言われたリチャードさんは、あわてて「イギリスに帰る、のではなく、石巻に

I've decided to go back.
私は帰ることにしました。(リチャード・ハルバーシュタット著「前を向いて、歩こう。」)
Tsunami come, go to high place.
津波が来る、高いところへ。

帰る、ということです」と伝えます。リチャードさんにとって、石巻は舌里と同じ「帰る」場所。津波で親しかった夫妻を亡くし、2人を悼む思いが石巻に残る決断を後押ししたそうです。

海外の人も理解を

そんなリチャードさんは2015年から震災伝承施設の館長となり、震災前の石巻や復興する姿を日本語と英語で伝えていきます。被災地には震



災後、犠牲者を追悼しようと、海外からも多くの人々が訪れます。彼らにまず伝えるのは「震度」という言葉。日本で地震のゆれの強さを示す尺度として使われる言葉ですが、他の国では使われていません。ちなみに津波は英語でもそのままTsunami。東日本大震災や2004年のスマトラ沖大地震などを通して津波のおそろしさが知られ、世界各国で一般的に使われるようになりました。

二つ目の文はリチャードさんが考えてくれた避難の呼びかけです。実は文法的には正しくなく、本来は「A Tsunami will come, run to high ground」などと言うべきですが、「正しい英語と通じる英語は違う」とリチャードさん。日本の学校では避難訓練は当たり前ですが、海外では一般的ではなく、リチャードさん自身、妨い

い。間違える勇気を持ってほしい」と呼びかけています。



宮城県石巻市の伝承施設館長を務めるリチャード・ハルバーシュタットさん

間違える勇気持って
震災伝えるイギリス人館長



リチャードさんが館長を務める「石巻市復興まちづくり情報交流館中央館」。周辺も約2分の高さまで浸水しました。宮城県石巻市で